

## 第10回 群馬県少子化対策推進県民会議 概要

1. 日 時 平成27年8月6日(木) 15:00~16:30

2. 場 所 群馬県庁29階 第1特別会議室

3. 出席者 県民会議委員 11名、代理委員 2名

4. 会議内容

(1) 「ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2010」の取組状況について

(2) 群馬県次世代育成支援行動計画(仮称)の策定状況について

(3) 意見交換

5. 局長あいさつ要旨

平成21年2月に第1回を開催した本会議は、ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2010に関するご意見や、県庁各課が実施する少子化対策関連事業の進捗状況等についてご意見をいただけてきた。少子化対策事業を推進してきたが、少子化の傾向には歯止めがかかっていない。今年6月に発表された本県の合計特殊出生率は1.44で、昨年度の1.41よりわずかに上昇したものの、人口を維持するのに必要な2.07には遠く及ばない状況が続いている。3月の国から出された「少子化社会大綱」では、少子化の問題は、個人の問題だけでなく、国の根幹を揺るがしかねない危機的状況であるとしている。

少子化対策は、即効性がある成果が出るものではない。幅広い分野からのご意見をいただきたい。

6. 議題1 会長、副会長選出

(1) 会 長：群馬県社会福祉協議会 会長 片野 清明氏を選出

副会長：群馬大学大学院保健学研究科 教授 佐藤 由美氏を選出

(2) 会長あいさつ

人口減少問題が大きく論じられている中、この会議は少子化対策について議論する重要な機会であると考えている。皆様に幅広く御意見を頂戴し、県政に反映させたい。御協力をお願いしたい。

副会長あいさつ

主に地域保健の立場から、話をさせていただいてきた。皆様と一緒に、たくさんの意見を出し合いたいと考えている。真剣に考えていかなければならない問題なので、ぜひ忌憚の無いご意見をいただきたい。

## 7.

## (1) 議題 2

質問・意見	回答等
<p>あいぷろと縁結びネットワークについて、事業内容を知りたい。</p>	<p>あいぷろは、民間団体の婚活イベントを件のHPを通じて紹介していく事業。若者の出会いの機会を提供するもの。</p> <p>縁結びネットワークは、地域婦人団体に委託し、結婚を希望する登録者に対して、婦人会のネットワークでお見合いを設定する事業である。</p>
<p>ピアサポーターについて知りたい。</p>	<p>婚活、妊活、子育て、イクメンの4つに分かれて、それぞれの経験者がボランティアでサポートをするシステム。セミナーを24回実施し、その後座談会形式で話し合った。色々なことで悩んでいる方がいて、話すだけでもすっきりするようだ。一步踏み出す機会として有効だったと感じている。また、若い人向けにも必要と感じた。</p>
<p>アンケート結果が低いが、それぞれの取り組みは何を行ったのか。また、今後どう考えていくのか。</p>	<p>それぞれを向上させるために、様々な事業を行ったが結果が得られなかった。アンケート項目が適当で無かったものもあったので、次期計画では検討したい。</p> <p>医療費無料化等群馬ならではの施策の充実がなされてきたが、県民の実感を得るまでには及ばなかった。引き続き部局間で連携して事業を進めるとともに、アンケート項目は再検討が必要であると考えている。</p>

## (2) 議題 3

質問・意見	回答等
<p>母子保健計画が内包されるとのことだが、その内容についてもこの場で議論するのか</p>	<p>母子保健計画はここで位置付けられるが、議論の場は母子保健会議で行い、本計画に反映していくことになる。</p>
<p>出生率等の数値目標はこの計画に盛り込むのか。</p>	<p>具体的には未定。地方版総合戦略と調整していくことになる。</p>

<p>数値を上げる(下げる)ことは議論があるところだ。母子保健会議でも、10代の中絶率の低下等が提案されたが、どうやって下げるのか、具体的にどう下げるかが大切だ。</p>	
<p>2010は8つの枠組みだったが、今度は枠組みを変えるのか。今までの取り組みが今度はどこに位置付けられるのか。</p>	<p>カテゴリー別だったものが、ライフステージごとになる。</p> <p>それぞれのライフステージごとに必要な施策を示していく形になる。</p>
<p>切れ目のない支援を並べ替えるということか。それぞれの内容に対して意見を言うのか。</p>	<p>県民会議は何かを決める会議ではなく、皆様に御意見をいただいて、様々な分野の担当課に繋ぎ、検討してもらおう場である。大所高所から忌憚のない御意見をいただきたい。</p>

### (3) 議題 4

質問・意見	回答等
<p>未婚化、晩婚化が深刻である。家族形成に力を入れるべきだと思う。若い男女の出会いの機会を増やし、異性の友人を作らせ、異性間のコミュニケーション、ルール、マナーを習得させるために、県立高校、県立大学完全共学化を提案したい。</p>	
<p>今は様々な媒体があり、若い人は交流の場を持っているとは思いますが、友達感覚から抜け出せないのではないかと。</p> <p>職場に独身者はたくさんいるが、昔のようなお節介ができない。フランクに話せる機会が必要。</p>	
<p>早期の性教育が必要。産むことに年齢制限があることを知らない。20代以上の意識を変えるのは、大人なので難しい。学齢期から働きかけないと。子育ては、夫が最大のサポーターだが、イクメンと全くかかわらない人と2極化している。2人目、3人目を持つには、夫の協力が不可欠。</p>	
<p>「自分には良いところがある」の数値が低いのが心配。自己肯定感を高めるには、身近な家族から子どもの良いところを伝えることが良いと思う。自信につながる。</p>	

<p>労福協で5年くらい前から出会いの広場事業を実施している。1つの企業内だけでは、特に中小企業は交流の機会が少ない。</p> <p>男性の育児休業の取得推進が重要だ。自然と取れるような体系づくりをやっていかないといけない。</p> <p>県外大学進学者のUターンが進まない。群馬で働く先を確保する必要がある。</p>	
<p>結婚しにくい社会といわれるが、様々な要因があるのだろう。生涯未婚率男性20%、女性9%は大きな問題だ。</p>	
<p>家族を持つ、という意識が薄いように感じる。家庭を持つこと、家庭が一番大切という意識を子どもの頃から培っていく機会を持たせる必要がある。父母を見ていると結婚したいと思わない子どもがいる。</p>	
<p>すべての物事に対して、多様性が多くなっている。結婚する・しない、産む・産まない等、多様性を考えての取り組みをしていかなければならない。</p>	
<p>未婚化、晩婚化の原因の一つに、独身者の親世代の影響があると思う。親世代が、無理に結婚しなくても良い、家にいれば良いと伝えている。</p>	
<p>3人目にはあらゆる制度について100%支援、2人目には50%など、3人目以降に優遇措置をしたら良いのではないか。</p>	